

看護職員数調査報告

(山鹿市および熊本市北区植木町の医療・介護・福祉施設等)

令和8年2月

調査目的

近年の少子化、産業構造の変化等により看護師を希望する若者が減少し、医療・介護・福祉施設において看護師確保が大きな問題である。

看護師養成所の生徒数は全国的に減少し特に、准看護師養成所において顕著で、生徒数の減少は養成所の運営にも大きく影響している。そのような中、毎年、全国で数校の准看護師養成所が閉校している。令和9年3月には、熊本県内でも1校の閉校が決定している。

鹿本医師会は、看護学校（准看護師養成所）を運営しているが、生徒数は著しく減少し、運営継続は危機的状況である。看護師のみならず准看護師も地域医療継続のために必要不可欠な職種である。

現在、地域で就労している看護師、准看護師の人数を調査することにより、特に准看護師の必要性を再確認し、鹿本医師会看護学校（准看護師養成所）の存在意義を検討する。

調査概要

調査対象は183事業所で、109事業所から回答を得た（回答率60%）。

全体の看護職員は1,095名で、准看護師養成所卒業者は669名（61%）。当校卒業者は245名（22%）である。

職域別看護職員の状況

山鹿市・熊本市北区植木町の病院・診療所の看護職員は856名（看護師609名、准看護師247名）。介護施設等では239名（看護師119名、准看護師120名）。全体の看護職員は看護師728名（66%）、准看護師367名（34%）で構成されている。

資格取得状況

看護師には、准看護師資格を取得した後に看護師資格を取得した者もあり、病院では、看護職員全体の約51%は、現に准看護師として就労している者や准看護師資格を保持する看護師である。同割合は、診療所では約76%、介護福祉施設では約75%である。准看護師養成がその後の看護師養成に繋がり、准看護師養成は看護師確保に大変重要と思われる。視点を変えれば、准看護師養成を停止すれば、看護師確保が一層困難になるものと思われる。

正看護師のうち、准看護師から看護師資格取得者は302名（当校卒業生89名、他校卒業生213名）。看護師のうち当校卒業生は89名（29%）、准看護師のうち当校卒業生は156名（43%）である。全体施設の約61%が准看護師養成所卒業生であった。

看護学校の必要性に関する意見

調査対象者の50%が「ぜひ必要」と回答し、34%が「できれば必要」とした。病院・診療所では46%が「ぜひ必要」、介護施設等では52%が同様の意見を示した。

准看護師養成所の必要性

高齢化に伴い、介護・医療分野での看護人材の需要が増加している中、准看護師養成所は、社会人他職種経験者で転職希望者に比較的容易に入学可能であり、地域に根ざした人材育成の場として、短期間での資格取得や働きながら学べる利点がある。

地域医療を支えるために、准看護学校の存続が重要であるとの意見が多く寄

せられている。特に、最終学歴が中卒の場合は高等学校等就学支援金制度が適用され返還不要の授業料支援が活用できる。また、ひとり親世帯や中年層の方々にとって、各種奨学金・教育訓練給付金等を活用し通学のしやすさが資格取得の機会を広げる。

地域医療への影響

地元での看護師不足が深刻であり、看護師確保のためにも准看護師養成所の存続が地域医療の質を保つために必要とされている。

卒業生の地元就職率や定着率の向上が求められており、地域医療の魅力を高める施策が必要とされている。

看護職の将来

准看護師資格取得後の進学コースの整備や、准看護師のメリットを明確にすることが、若い世代の選択肢を広げる鍵となる。

医療職の待遇改善や、看護職の意義を周知することが、応募者増加につながると考えられている。

運営の課題

学生数の減少や職員数の不均衡が経営に影響を及ぼしており、今後の運営維持に不安がある。

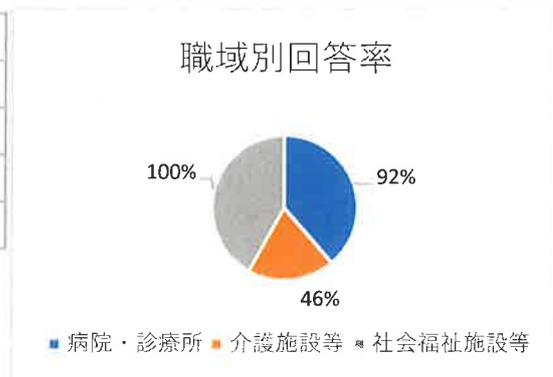
看護職員数調査報告（病院・診療所・介護施設等）

看護職員数調査報告（病院・診療所・介護施設等）

1. 山鹿市医療機関33事業所、介護保険施設・社会福祉施設等85事業所、植木町医療機関18事業所、介護保険施設・社会福祉施設等47事業所、合計183事業所に調査依頼、109事業所より回答あり。（回答率60%）
2. 全体看護職員1,095名のうち准看護師養成所卒業者は669名（約61%）、准看護師養成所卒業者669名のうち当校卒業者が245名（約37%）である。当校卒業者245名は全体の1095名の約22%である。

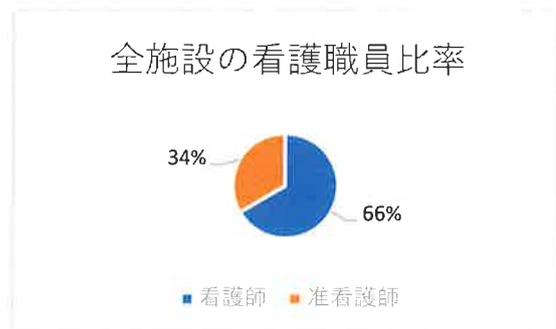
(1) 職域別回答件数

	依頼件数	回答件数	回答率
病院・診療所	51	47	92%
介護施設等	130	60	46%
社会福祉施設等	2	2	100%
合計	183	109	60%



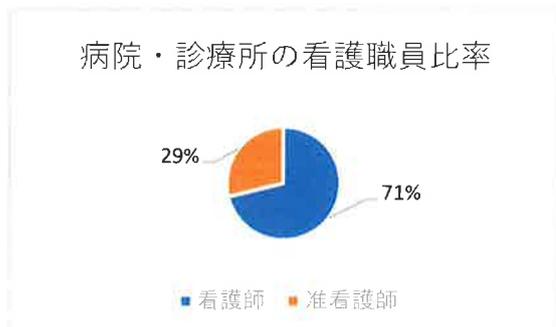
(2) 全施設の看護職員

	人数	割合
看護師	728	66%
准看護師	367	34%
合計	1,095	



(3) 病院・診療所の看護職員

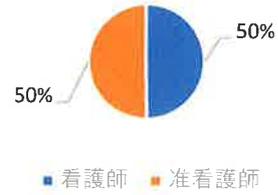
	人数	割合
看護師	609	71%
准看護師	247	29%
合計	856	



(4) 介護施設等の看護職員

	人数	割合
看護師	119	50%
准看護師	120	50%
合計	239	

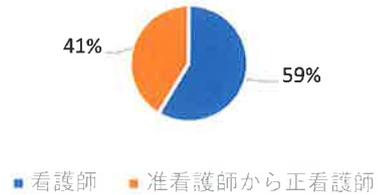
介護施設等の看護職員比率



(5) 全施設の正看護師のうち准看護師から正看護師の資格取得者

	人数	割合
看護師	426	59%
准看護師から正看護師	302	41%
合計	728	

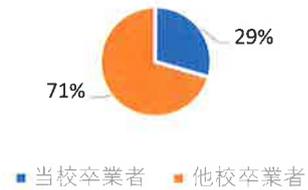
准看護師から看護師資格取得者



(6) 全施設の准看護師から正看護師の資格取得者で当校卒業者

	人数	割合
当校卒業者	89	29%
他校卒業者	213	71%
合計	302	

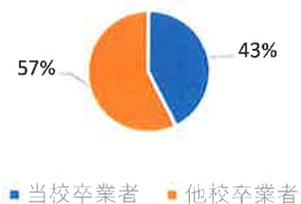
当校卒後看護師資格取得者



(7) 全施設の准看護師のうち当校卒業者

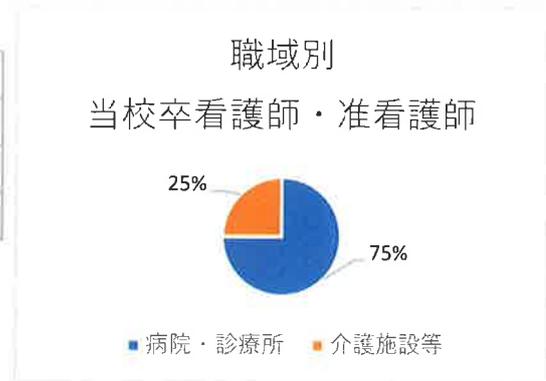
	人数	割合
当校卒業者	156	43%
他校卒業者	211	57%
合計	367	

当校卒准看護師



(8) 職域別の当校卒業者数

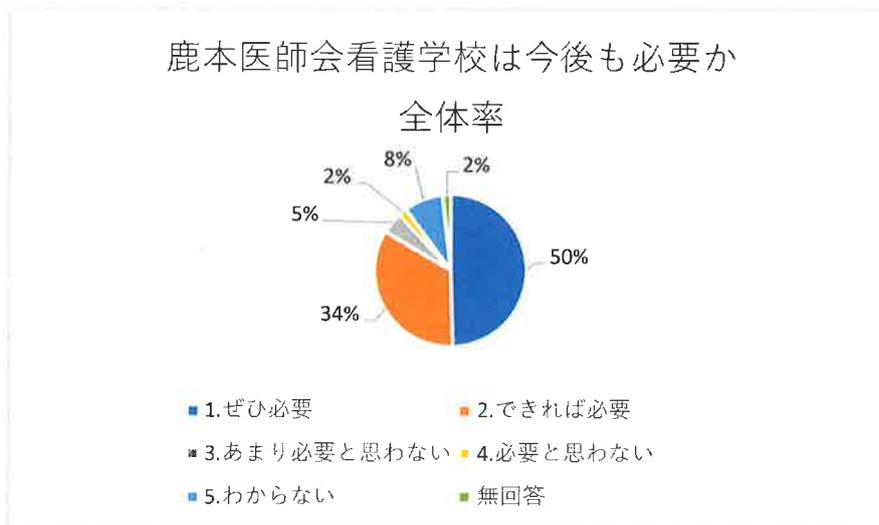
	看護師	准看護師	計
病院・診療所	74	110	184
介護施設等	15	46	61
合計	89	156	245



(9) 鹿本医師会看護学校（准看護師養成所）は今後も必要か

①全体

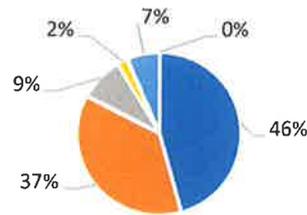
内訳	回答	割合
1.ぜひ必要	54	50%
2.できれば必要	37	34%
3.あまり必要と思わない	5	5%
4.必要と思わない	2	2%
5.わからない	9	8%
無回答	2	2%
合計	109	100%



②病院・診療所

内訳	回答	割合
1.ぜひ必要	21	46%
2.できれば必要	17	37%
3.あまり必要と思わない	4	9%
4.必要と思わない	1	2%
5.わからない	3	7%
無回答	0	0%
小計	46	100%

鹿本医師会看護学校は今後も必要か
病院・診療所

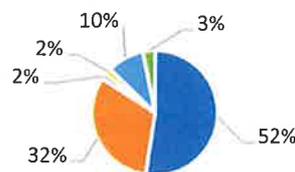


- 1.ぜひ必要
- 2.できれば必要
- 3.あまり必要と思わない
- 4.必要と思わない
- 5.わからない
- 無回答

③介護施設等

内訳	回答	割合
1.ぜひ必要	33	52%
2.できれば必要	20	32%
3.あまり必要と思わない	1	2%
4.必要と思わない	1	2%
5.わからない	6	10%
無回答	2	3%
小計	63	100%

鹿本医師会看護学校は今後も必要か
介護施設等



- 1.ぜひ必要
- 2.できれば必要
- 3.あまり必要と思わない
- 4.必要と思わない
- 5.わからない
- 無回答

看護職員数調査報告（病院・診療所のみ）

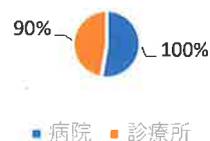
看護職員数調査報告（病院・診療所のみ）

1. 鹿本医師会会員医療機関51事業所に調査依頼、47 事業所より回答あり。（回答率約92%）
2. 病院・診療所看護職員856名のうち准看護師養成所卒業者は491名（約57%）、准看護師養成所卒業者491名のうち当校卒業者が184名（約37%）である。当校卒業者184名は全体の856名の約21%である。

(1) 職域別回答件数

	依頼件数	回答件数	回答率
病院	9	9	100%
診療所	42	38	90%
合計	51	47	92%

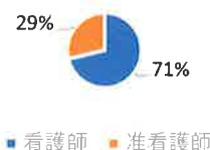
職域別回答率



(2) 病院・診療所の全看護職員

	人数	割合
看護師	609	71%
准看護師	247	29%
合計	856	

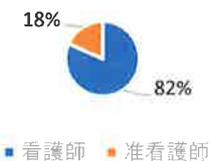
病院・診療所の看護職員比率



(3) 病院の看護職員

	人数	割合
看護師	527	82%
准看護師	119	18%
合計	646	

病院の看護職員比率



(4) 診療所の看護職員

	人数	割合
看護師	82	39%
准看護師	128	61%
合計	210	

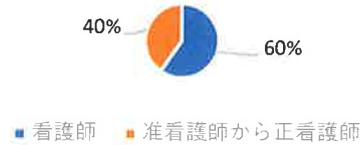
診療所の看護職員比率



(5) 病院の正看護師のうち准看護師から正看護師の資格取得者

	人数	割合
看護師	315	60%
准看護師から正看護師	212	40%
合計	527	

病院の准看護師から
看護師資格取得者比率



(6) 診療所の正看護師のうち准看護師から正看護師の資格取得者

	人数	割合
看護師	50	61%
准看護師から正看護師	32	39%
合計	82	

診療所の准看護師から
看護師資格取得者比率



(7) 病院の准看護師から正看護師の資格取得者で当校卒業者

	人数	割合
当校卒業者	70	33%
他校卒業者	142	67%
合計	212	

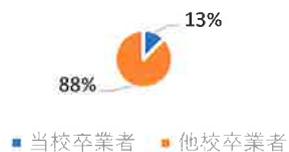
病院
当校卒後看護師資格取得者



(8) 診療所の准看護師から正看護師の資格取得者で当校卒業者

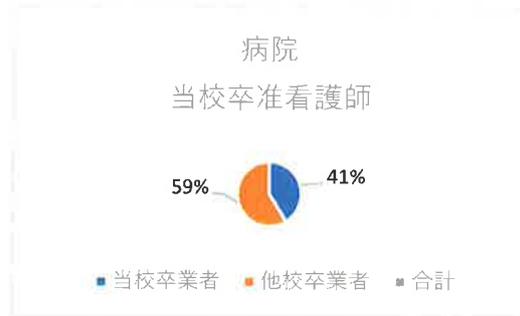
	人数	割合
当校卒業者	4	13%
他校卒業者	28	88%
合計	32	

診療所
当校卒後看護師資格取得者



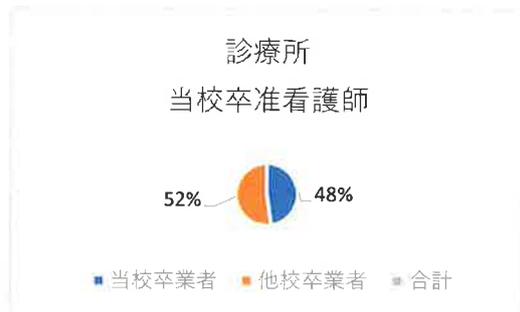
(9) 病院の准看護師のうち当校卒業者

	人数	割合
当校卒業者	49	41%
他校卒業者	70	59%
合計	119	



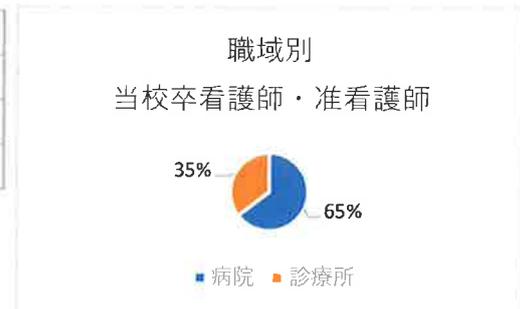
(10) 診療所の准看護師のうち当校卒業者

	人数	割合
当校卒業者	61	48%
他校卒業者	67	52%
合計	128	



(11) 職域別の当校卒業者数

	看護師	准看護師	計
病院	70	49	119
診療所	4	61	65
合計	74	110	184



(12) 鹿本医師会看護学校は今後も必要か（病院）

内訳	回答	割合
1.ぜひ必要	4	44%
2.できれば必要	4	44%
3.あまり必要と思わない	1	11%
4.必要と思わない	0	0%
5.わからない	0	0%
無回答	0	0%
合計	9	100%

鹿本医師会看護学校は今後も必要か

病院

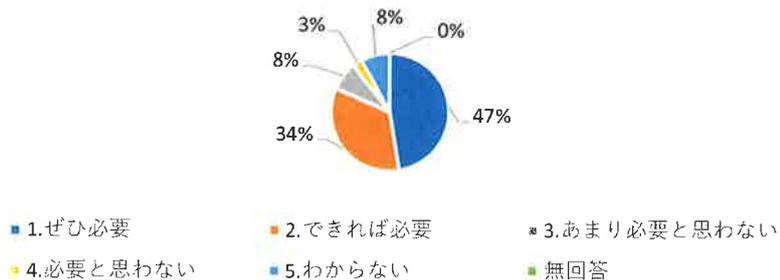


(13) 鹿本医師会看護学校は今後も必要か（診療所）

内訳	回答	割合
1.ぜひ必要	18	47%
2.できれば必要	13	34%
3.あまり必要と思わない	3	8%
4.必要と思わない	1	3%
5.わからない	3	8%
無回答	0	0%
合計	38	100%

鹿本医師会看護学校は今後も必要か

診療所



意見等

・私も准看からですが色々な学校や大学があるためなかなか厳しいと思いますが色々な事情で学生の時は目指せなかった人も社会人から目指すには養成所は必要だと思いますので頑張らせてください。

・高齢化が進み介護・医療分野における看護人材の需要は今後も増加すると考えられます。その中で准看護学校は地域に根ざした人材育成の場として短期間での資格取得や働きながら学べるなど多くの利点を有していると思います。一方で人口減少や若年層の流出により医療・福祉現場での人材確保は年々困難になっています。こうした状況の中貴校の存続と発展を通して地域医療を支える人材育成が今後も継続されることを心より願っています。

・看護業務と介護業務の兼用をさせていただいているのでとても助かっています。

・ひとり親世帯や中年層の方の就労を考えると通常の看護学校では距離や時間の制約から通学が難しい場合があります。山鹿市で学べる環境が整うことでそうした方も資格取得の機会を得ることができ就労やひとり親の自立支援にもつながるのではないかと思います。結果として子供達も無理のない生活を送ることができるのではないかと思います。

・地域医療に必要な不可欠な資格です。是非頑張ってください。

・山鹿市唯一の看護学校であり、皆遠くへ行かれ看護の方の不足があると思います。准看から正看への道が一緒に取れる事が出来たらもっと良いかなと思います。すみません、看護業務ではないのですが思ったことを記入させて頂きました。いつもお世話になっております。

・若い方たちはストレートで正看護師の道がほぼだと思いが社会人の方たちはトライする道が准看はなく正看のみだとハードルが高くなり間口が狭くなると思います。また、山鹿のシングルマザーさん方だと山鹿で働きながら子育てしながら通学のため鹿本准看はとても必要だと思う。(准看がトライしやすい)人口減少のため学生確保には統合や縮小は仕方がないと思います。運営等お世話になります。

・現在看護職を離れ介護支援専門員として就業しております。ただ基本に看護を学んだ事もありこの仕事に生かせていると思います。若い方の看護師養成は必要だと思いますが、少し子育てが一段落ついた方でも看護を学ばれることを願います。患者様にとっても40代50代の看護師の方のぬくもりのある言葉やケアが癒しになると思います。心の教育をお願いします。

・鹿本医師会看護学校卒業生はどれくらいの割合で地元にいるかを知りたいと思いました。ぜひ、山鹿市内で働いて欲しいと思います。調査結果を教えて頂くとありがたいです。

・地元での看護師を目指す人にとって必要と思いますが生徒数の減少はよく聞いており学校として成り立つのか存続できるのかと案じています。

・地域の為にも存続は必要と考えます。皆で知恵を出し残して欲しい。

・働きながら資格を取りたいと考えている社会人にとっては現在の准看学校は存続したら良いと思います。

・今後共宜しくお願い致します。

・現在、介護施設では人材確保が大変厳しい状況です。職員も高齢化しており今いる職員が退職したら確保できるかどうか分かりません。地域の医療・介護を守るためにも存続をお願いします。

・卒業生数など記載している為、くれぐれも個人が特定されない様に個人情報の管理は宜しくお願いします。もし流失した場合はこちらは一切責任を負いません。

・大学卒の看護師が増加しており、看護協会も4年間の看護教育と訴えており、2年間の准看護師教育内容では充分ではない。他の医療職は2種類の資格取得はないので国民も混乱する形態だと思う。また、准看護師資格は都道府県知事認定であり介護福祉士も国家資格よりも教育時間は長く、中途半端な存在だと思うので看護師一本の資格認定制度にした方がよいと思う。

・当センター看護部では准看の採用はしていません。しかし地域の医療介護の状況や准看取得後に看護師を目指す方も居られることからニーズに応じて実習施設としての協力は継続したいと考えます。

・看護師を目指す学生さん達には資格取得後は他職種に就かず看護の道へ進んでほしいと思っています。まだ学生の間は短時間でも臨床の場で働き学びを深めていくことを期待します。

・准看護師養成所は、絶対必要だと思います。しかし、今後の医師会会員数減少が見込まれ山鹿市の人口も減少する中、経営維持は難しいとも思います。残念ですが区切りをつけるしかないです。山鹿市の地域医療提供充実事業で看護師・准看護師合わせて平成27年度から31名がこの制度を利用しているが、この中で現在山鹿市で勤務している人は14名との事。規約に違反している人はいないようですが定着率の悪さが目立ちます。定着率を上げるためにはどうすればよいか。定着しなかった方々の分析が必要かと思います。山鹿の街に住み続ける魅力がないのでしょうか？今後7年間で看護師13名、准看護師8名を対象としているとの事ですが、、、。地域医療提供充実計画で看護学校を支援することまでは不可能でしょうね。正直、当診療所も後継者が無くあと数年後に閉院するしかないと思います。医師会の医師偏在地域における継承・開業支援事業もありますが、、、。山鹿の地域医療に強い危機感を感じていますが、打開策はないと思います。山鹿の人口が増えるように産業が発展しないとどうしようもないと感じています。

・地域医療の看護師不足を改善の一助となるよう看護学校は今後も必要だと思います。

・現在の状況では今後生徒が増えるとは思えないし、生徒の数より職員の方が多いので経営・維持に不安を覚える。

・准看護師取得後、即看護師資格を取得するためのコースがあれば進学するチャンスが増えるとも考えました。準備や整備が難しいことは承知した上での希望です。

・楽な仕事が好まれますが意義のある職務であることを繰り返し周知する。待遇改善には原資が不可欠。（診療報酬を適正に）

・学校に関与しておらず言える立場ではありませんが、今後学生が増えていく状況にないように思いますが、一度閉校してしまった時、再度は更に困難だと思われそうですが、現状お聞きすると厳しいように思います。

・看護師一本ではなくその学校に介護科もあったら相乗効果出来ないですかね。今でも介護職員足りません。

・正看護師と准看護師では同じ仕事内容でも給与に差があります。また准看から正看になる場合も働きながらであったり学費などが問題となるので今の若い世代の方は選択肢に入らないのだと思います。何か新たな准看を選ぶメリットが必要かなと思いました。

・応募者が少なく定員の半数にも満たないと学校運営の危機であることはよくわかります。准看護学校の授業・内容は全国一律であるならWEB授業等できれば、、、。実際にされているところはあるのでしょうか？対面<WEB WEBが値段高ければ元も子もありませんが、、、。保険診療の単価が上昇しなければ医療職の給与も上昇しません。以前は看護職の給与は他職種より高めの時がありましたが熊本はTSMCの影響下で工場勤務での給与が高いこともあり金銭面で選ばれにくくなってきている。医療職が誇りを持って働ける姿を若い人達の目に届ける機会が多いといいなと思います。そして応募して勉強して准看の資格を取って働くもよし更なるステップアップを重ねて欲しいと思っています。人と関わる仕事、命と向き合う仕事を目指してほしいな。

・地域医療・地域福祉を担う上で看護職は大切な人材であることに深く共感いたします。今後も准看護師養成への取り組みを心より応援申し上げます。

・北区の准看護学校は鹿本医師会が主なので卒業生は地域の病院で活躍できる貴重な人材だと思います。存続を応援したいです。